3　桂川・相模川流域シンポジウム
「桂川・相模川の源　変わりゆく富士山」

（報告者：山梨県富士・東部林務環境事務所）

■開催趣旨

2008年度の流域シンポジウムは、上下流交流事業と合わせ、富士河口湖町において11月8日に開催しました。

桂川・相模川を遠く遡ればそれは富士山に至ります。富士山とその周辺環境である森林等が育んだ水が桂川・相模川に注がれています。現在、富士山は、世界文化遺産登録に向けた動きが活発であり、富士山に加え周辺環境の保全をいかに図るべきかが注目されています。

河口湖から望む富士山

シンポジウム実行委員会（6回開催）においては、このような折に、流域協議会が富士北麓の富士河口湖町において、流域シンポジウムを開催することは、意義深いことではないかとの意見がありました。また、富士山が桂川・相模川の源であることは、意外と知られていないことではないか、流域住民等に流域の源が富士山であること、その環境保全の重要性に気付くことは重要なことであると意見がまとまり、テーマを「桂川・相模川の源　変わりゆく富士山」としてシンポジウムを開催することになりました。

■開催概要

・日時　2008年11月8日(日)
　13時～16時
・会場　勝山ふれあいセンター
　（山梨県富士河口湖町）
・参加者　160名
・パネル展示　10団体

パネル展示

パネル展示見学、オマタタツロウさんのコンサート、倉橋代表幹事、渡邊富士河口湖町長のあいさつののち、富士山に関連する活動・研究をされている3人の方の講演が行われました。

好評だったオマタさんのコンサート

□講演

「富士山の世界文化遺産登録について」

山梨県企画部世界遺産推進課長

吉澤　公博氏

■**世界遺産登録の取組み**　本栖湖から見る大変きれいな富士山、葛飾北斎らが描いた美しい富士山を大切なものとして後世に残していきたいというのが富士山の世界遺産登録への取組みです。

■**世界遺産とは何か**　1972年に世界遺産条約が締結され日本は1992年に加盟、現在は185ヶ国の国や地域が加盟しています。世界遺産の種類には文化遺産、自然遺産とこれらを合わせ持つ複合遺産という3つがあります。富士山は文化遺産を目指しており、さらに文化的景観というものを出しています。これは、自然と人間の共同作品、豊かな自然の中に人間の生活や文化が創造されて大きな景観をなしているということです。

■**世界遺産登録に向けた取組み**　まず、本推薦の前に暫定リストに登録する必要があり、富士山は平成19年に暫定リストに登載されました(日本では8件)。その後本推薦に向け様々な取組みをしています。本推薦が提出されるとユネスコの専門機関イコモスの現地調査、世界遺産委員会の審議を経て登録になります。なるべく早く推薦書を提出するということが目下の課題です。

■**富士山の価値**　富士山のどのような点に価値を見い出しているのかというと、富士山の信仰、富士山と芸術、富士山の自然の3つです。

■**富士山の信仰**　9世紀頃、富士山の噴火を鎮めるため浅間神社が各地で建てられました。富士山の麓には50くらいの浅間神社があり信仰の場となっていました。修験、祈願として登山が行われてきており、現在では静岡も入れると約40万人の登山者がいると言われています。

■**富士山と芸術**　葛飾北斎、安藤広重の浮世絵のほか、文学、絵画、工芸といった芸術の題材になっています。古くは万葉集にも詠われています。

■**富士山の自然**　火山は三層構造であり、約40万年前、約10万年前に火山ができており、約1万年前に現在の形となっています。独立峰であるため周囲から見ることができ、植物も垂直分布の重要な地域となっています。また、富士山からは地下水、湧水という形で周辺地域に流れます。柿田川や忍野八海といった恵み、湧水を利用したミネラルウォーターといった産業にも発展しています。

■**構成資産候補**　どこの範囲を富士山というのかという問題ですが、富士山中央の特別名勝エリアや登山道、浅間神社、湧水、湖沼などの数々の資産があります。富士山の溶岩の流れた範囲を基本とし、点在する風穴、このような地形などを含めて構成資産候補ととらえています。

■**環境保全の取組み**　静岡県と山梨県は10年前に富士山憲章を制定し、自然、景観、歴史を後世に継承するためのスローガンをつくりました。トイレの問題もありましたが、平成18年度までにすべて整備されました。富士山周辺の清掃活動、不法投棄対策も官民一体で取り組んでいます。

■**最後に**　富士山は自然があってこそ人々の暮らしがそこに息づいていると思っています。富士山が後世まで保たれるよう活動をしていきますので、皆様のご支援をよろしくお願いします。

□富士山の森づくりについて

財団法人オイスカ山梨県支部事務局長
田中　美津江氏

■**オイスカとは**　財団法人オイスカは、国際ＮＧＯとして47年ほど東南アジアを中心として活動を続けている団体ですが、近年は日本でも見える活動をしてほしいという会員や地域の皆さまからの要望もあり、私どもも日本の活動も必要ではないかという観点から、この20年くらい、特に森づくりを中心にした活動をしております。今回は昨年からの取組みである富士山の森プロジェクトについてお話しします。

■**富士山の森づくり**　富士山周辺（北麓）の森林の再生については、天然更新をしていくことになっていましたが、もっと早い森の再生ができると考えました（方法は後述）。森づくりは十人十色と言われますが、今回のように100haといった非常に広い森の場合には、統一的な森づくりをしていきたいという思いがありました。

また、富士山の森づくりは、森林の持つ機能の大切さを知る啓発活動になるということ、森林従事者の雇用の促進、交流による地域の活性化、さらには富士山の世界遺産登録にもつながっていくのではないかと考えました。

■**森づくりの手法**　富士山の森林のうち46％が人工林でシラベなどが植えられていましたが、2002年に病虫害により大規模な枯死被害がありました。被害地域は皆伐、周辺地域の防止対策は列状間伐により天然更新を促すというものでしたが、私どもは、専門の研究者の方のご意見（何をどのように植えるのか）を伺い、天然更新より早い（人為的な）森づくりを行うことにしました。

何を植えるのかについては、天然林の調査により元気に育っている５種を選定し、地元業者の方に育てていただきこれを植えることにしました。どのように植えるのかについては、天然林の立木密度も調べ１haに1,000本、自然に近い形ということで（列状でなく）ランダムに植えています。

■**新たな管理の枠組み**　今、森林は民有地の場合、放置林が増え、所有者による管理に限界があり、新たな管理の枠組みが必要と感じています。企業との協働や私どものような民間（団体）が関わる必要があるという状況になっています。

■**企業のメリット、オイスカの役割**　企業が森林整備に参画すると、単なる社会貢献ではなく、社員研修や社員の家族サービスやレクリエーションのフィールドとなっていきます。企業は森林整備への参画に注目をしていますが、オイスカはこのとき何をするのか。オイスカは森づくりのプロではありませんが、情報の収集、提供をすることができます。どんな支援が必要とされているか（植えることより手入れが必要ですよとか）、どんな手続きが必要か、どこに資金があるか、どのようにしたらその資金が使えるか等の情報を収集し、関係機関と連絡調整をしていきます。森づくりは色々なセクターの人が協働して行う必要があると事例を通してわかっていますので、コーディネーター、仲人役が必要との結論になりました。

■**具体的には**　１社１団体では成果が見えにくいので、多くの皆さんに参加をしてもらうため、成果の共有化や発信を広く行うこと、地元の方と企業との意向を合致させていずれもが納得できる方向を探っていくといったものです。

■**実際行ってみると**　植林地は富士山の２合目３合目であり作業もハードですが、平

成19年度には800人、今年は8企業から1,000人を超えるボランティアの参加がありました。植林作業は家族連れで植えていただく方もいて、リピーターの方も沢山います。企業によっては抽選をして参加者が決まるところもあります。富士山の魅力なのでしょうか。

■協議会の立ち上げ　どんな森づくりが必要か、自然との関わりをいかに持つべきか、また、森づくりの成果を多くの皆さんに知っていただくため、富士山の森づくり推進協議会を立ち上げました。これからも勉強会などを開きながら活動を続けていきたいと思っています。

□富士山・富士五湖周辺の水環境研究の新展開

山梨県環境科学研究所
輿水　達司氏

富士山を地質学的な視点から見ると色々な姿が見えてきます。

水は上空から降ってきて地層と接しますので、地層の性質を化学的にも物理的にも引き継いだものが水に現れます。この性質の特徴をご紹介します。

原点の研究はバナジウムでした。広範囲に水を取って比較すると、流紋岩、花崗岩が多い愛知県付近ではバナジウムは少ないが、玄武岩の多い富士山周辺ではこれが高くなります。

分布する岩石の種類に応じて地域の水の性質が違うことがわかりました。上から降った水が岩石の地層の性質を絞り出して出てきます。富士山の岩石にはリンが高く、ウランは少ないのですが、昇仙峡などの他地域と比較すると水のデータにも地域差として現れています。岩石の種類に応じて各種の元素の水への入り方が違うということです。

富士五湖は地下水が富士五湖の水になると信じている人がいますが、富士五湖の水の性質は周辺の地下水とは異なるものであり、富士五湖の水は地下水もあるでしょうが、多くは表層をさらって流れ込んだようなもので形成されているという理解ができます。10年ほど前の台風の時に急に水面が上がったということも説明ができると思います。

■地質と水の関係を見ると　このように水の循環システムは従来の理解とは違った様子であることがわかりつつあるのです。

□意見交換会

コーディネーターは、当協議会で事務局のご経験のある山本幹雄氏。講師の3氏、参加者とともに意見交換を行いました。

意見交換会

■世界遺産関係　吉田口登山道の整備、5合目以上のごみ対策について質問がありました。吉澤氏からは、登山道は県道として歩きやすいように整備していること、5合目付近のごみは見えるところにはほとんどなく、埋まっているごみを今は取り除いているといったお話しがありました。

■森づくり　林業の後継者や将来の仕事を確保していくための方法について質問があ

りました。田中氏からは、企業との協働などのオイスカの活動は林業を生業としている人たちに元気を取り戻してもらうためであり、企業からの出資金も林業家、そこに暮らしている人たちに渡るような仕組みをつくらないと一過性の活動になってしまうといったお話しがありました。

■**湧水、水質**　富士山からの湧水群のある地域の浅井戸の水が少ないことへの対策について質問があり、輿水氏から深い地点と浅い地点で継続的にモニタリングをするとよいということなどのお話しがありました。

協議会や流域の状況に詳しい山本さんの巧みなリードによって、活発な質疑が交わされました。

■上下流交流事業・流域シンポジウムを終えて

富士河口湖町環境課長
佐野　牧生

桂川・相模川流域協議会の流域シンポジウムを本町で開催するのは初めてのことでした。今年度は上下流交流事業も同日開催であり、桂川・相模川流域から多くの皆さんが当地を訪れていただき、あらためまして感謝を申し上げます。

本町の象徴は何と言っても河口湖と湖畔に雄大に美しく映る富士山であります。本町において富士山をテーマとするシンポジウムを開催し、河口湖畔において植樹を行っていただくことは、とても意義深いことであったと感じています。

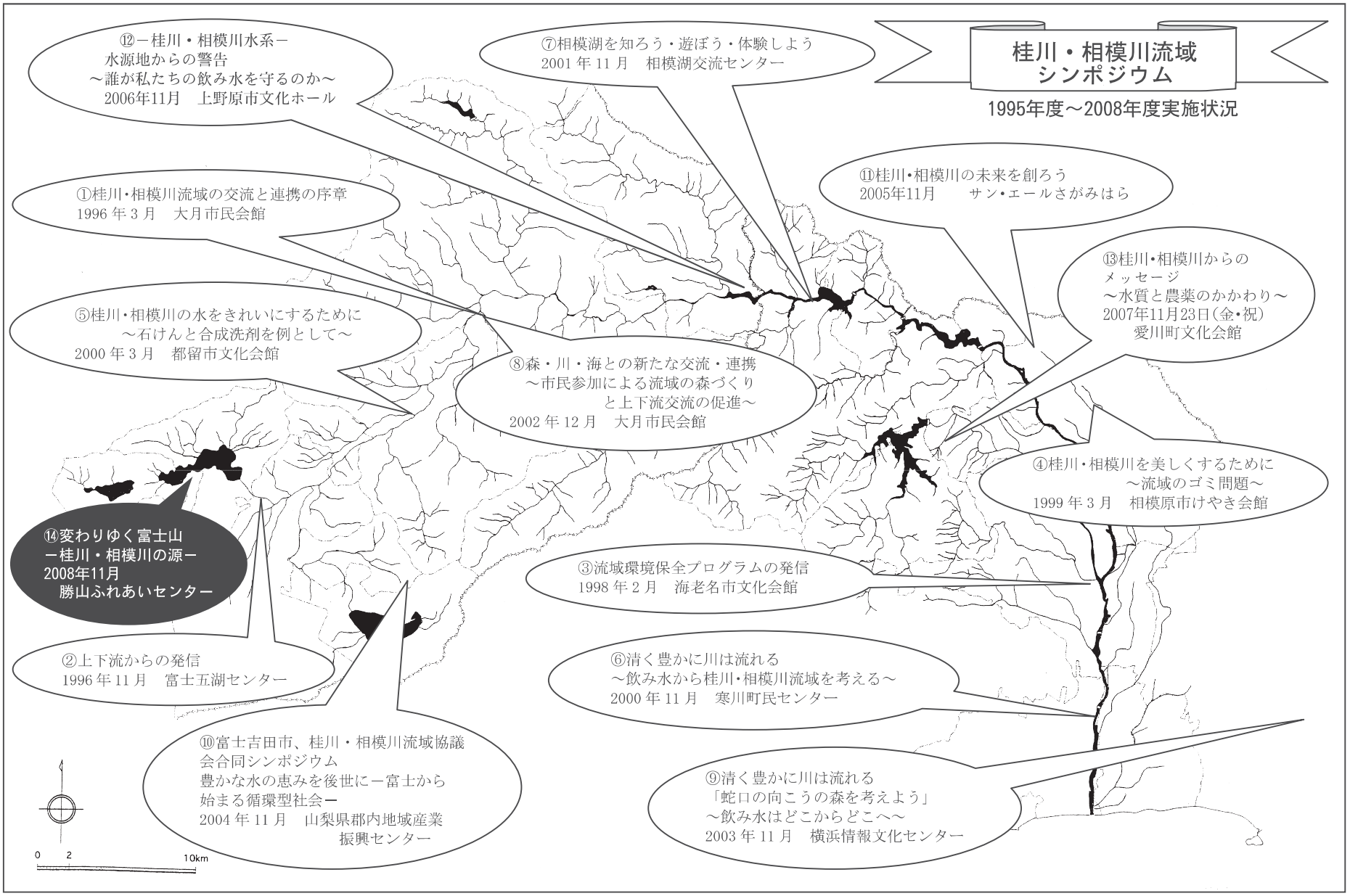
河口湖畔における植樹は、小雨が落ちるあいにくの天気でしたが、遠路神奈川県からお越しの参加者の皆さんと地元山梨県の皆さんが一緒になり、懸命に作業をしていただきました。植樹したサクラは今春以降、立派に育ち、湖畔に彩りを加えてくれることと思います。

流域シンポジウムは、関心の高い富士山に関するものでした。

富士山の世界文化遺産登録については、本町も関わりが深く、町民の参加者にとっても有意義なものであったと感じています。また、オイスカの森づくりや地質から富士山を見た場合の研究成果などのご講演は、富士山を身近に感じる私たちにとっても新鮮な内容であり、多様な角度から富士山を見る契機となったと思います。

この上下流交流事業と流域シンポジウムは実に計6回の実行委員会の開催を経て行われています。このうち2回は当地で実行委員会が開催され、実行委員の皆さんはご多忙中にもかかわらず当地に赴かれ、シンポジウム会場の視察などを通して実施内容の検討を熱心に行っておられました。今回の両行事にご尽力されました皆さんに深く感謝を申し上げたいと思います。

最後に、今回のシンポジウム等の開催をきっかけとして、富士河口湖町を再度訪れていただき、日本晴れに輝く富士山と河口湖、季節に応じて咲き誇るラベンダーや植樹をしていただいたサクラ、秋の見事な紅葉をご覧くださいますようお願い申し上げ、開催地からのお礼のご挨拶といたします。


桂川・相模川流域
シンポジウム
1995年度～2008年度実施状況
⑫－桂川・相模川水系－
水源地からの警告
～誰が私たちの飲み水を守るのか～
2006年11月　上野原市文化ホール
⑦相模湖を知ろう・遊ぼう・体験しよう
2001年11月　相模湖交流センター
⑪桂川・相模川の未来を創ろう
2005年11月　サン・エールさがみはら
①桂川・相模川流域の交流と連携の序章
1996年3月　大月市民会館
⑬桂川・相模川からの
メッセージ
～水質と農薬のかかわり～
2007年11月23日(金・祝)
愛川町文化会館
⑤桂川・相模川の水をきれいにするために
～石けんと合成洗剤を例として～
2000年3月　都留市文化会館
⑧森・川・海との新たな交流・連携
～市民参加による流域の森づくり
と上下流交流の促進～
2002年12月　大月市民会館
④桂川・相模川を美しくするために
～流域のゴミ問題～
1999年3月　相模原市けやき会館
⑭変わりゆく富士山
－桂川・相模川の源－
2008年11月
勝山ふれあいセンター
③流域環境保全プログラムの発信
1998年2月　海老名市文化会館
②上下流からの発信
1996年11月　富士五湖センター
⑥清く豊かに川は流れる
～飲み水から桂川・相模川流域を考える～
2000年11月　寒川町民センター
⑩富士吉田市、桂川・相模川流域協議
会合同シンポジウム
豊かな水の恵みを後世に－富士から
始まる循環型社会－
2004年11月　山梨県郡内地域産業
振興センター
⑨清く豊かに川は流れる
「蛇口の向こうの森を考えよう」
～飲み水はどこからどこへ～
2003年11月　横浜情報文化センター
0　2　10km